







カルナバル同行  
一一人聖市見物

サントアマーロ 原 静 洋

▼ 街頭の巻 ▲

の様に透明な空に聴こえて狂亂

山男にあらの何んごへない香  
水を誰一人恵んで與れなかつた。  
寂然として淋々く物足らぬ其の機會をいつして、一生  
走る「人のすゞり電車」と  
其の兩側をあわだしく駆策  
を鳴して疾風する自動車、そ  
の端切れの謡間に、石の  
補道に駆くガタ／＼擦く踏轍  
音、其の間を往来する人の  
足音、何んの風雅もなき石油  
箱を重ねた様な軒から涌く  
ラジオのジャズ、この騒音、  
いわば音の中青赤と無窮の街  
の光を纏ひんだ都會の姿は  
出合者の私をして都會生活の  
如側に煩累の多きことを思  
はしめた。

「オイ都會はいやだー！」

「イヤだー！」田舎が呑氣で良

いナーチー！

「ボヤー／＼してゐると機殺さ

れるゾー」

「何處のルアーモ人で一杯だ

「本當だ今晚は化物で一杯だ

「米ぬか虫も贋分居るナーモー

（日本人の御嬪様で喰つて

なんだぞ）

「ソウコそれでも排日だなん

てフザケてら」

相棒道案になつて、右へ

左へと頗れで行くべくれ。そんな

「オイ俺りや脚氣だ。そんな

に早く行つたら後で困るゾー

相棒一寸微笑ながら残念そ

うに

「俺りや方角も町名も知ら

エから置去りするなヨ」

「良しや俺の後について來

い」「ヨシヤー

「なんだ人を見たとボンで

「ソレハ香水だヨ」「エヘー

「水をかけて歩く奴等」

幼時や、奇島陥落の時の提灯

行列の昔をしのび、近くは陸

の御大典にまで過去を追憶

して、母國の空が何んとなく

「そうだヨ」

相棒道案になつて、右へ

左へと頗れで行くべくれ。そんな

「オイ俺りや脚氣だ。そんな

に早く行つたら後で困るゾー

相棒一寸微笑ながら残念そ

うに

「俺りや方角も町名も知ら

エから置去りするなヨ」

「良しや俺の後について來

い」「ヨシヤー

「なんだ人を見たとボンで

「ソレハ香水だヨ」「エヘー

「水をかけて歩く奴等」

幼時や、奇島陥落の時の提灯

行列の昔をしのび、近くは陸

の御大典にまで過去を追憶

して、母國の空が何んとなく

「そうだヨ」

相棒道案になつて、右へ

左へと頗れで行くべくれ。そんな

「オイ俺りや脚氣だ。そんな

に早く行つたら後で困るゾー

相棒一寸微笑ながら残念そ

うに

「俺りや方角も町名も知ら

エから置去りするなヨ」

「良しや俺の後について來

い」「ヨシヤー

「なんだ人を見たとボンで

「ソレハ香水だヨ」「エヘー

「水をかけて歩く奴等」

幼時や、奇島陥落の時の提灯

行列の昔をしのび、近くは陸

の御大典にまで過去を追憶

して、母國の空が何んとなく

「そうだヨ」

相棒道案になつて、右へ

左へと頗れで行くべくれ。そんな

「オイ俺りや脚氣だ。そんな

に早く行つたら後で困るゾー

相棒一寸微笑ながら残念そ

うに

「俺りや方角も町名も知ら

エから置去りするなヨ」

「良しや俺の後について來

い」「ヨシヤー

「なんだ人を見たとボンで

「ソレハ香水だヨ」「エヘー

「水をかけて歩く奴等」

幼時や、奇島陥落の時の提灯

行列の昔をしのび、近くは陸

の御大典にまで過去を追憶

して、母國の空が何んとなく

「そうだヨ」

相棒道案になつて、右へ

左へと頗れで行くべくれ。そんな

「オイ俺りや脚氣だ。そんな

に早く行つたら後で困るゾー

相棒一寸微笑ながら残念そ

うに

「俺りや方角も町名も知ら

エから置去りするなヨ」

「良しや俺の後について來

い」「ヨシヤー

「なんだ人を見たとボンで

「ソレハ香水だヨ」「エヘー

「水をかけて歩く奴等」

幼時や、奇島陥落の時の提灯

行列の昔をしのび、近くは陸

の御大典にまで過去を追憶

して、母國の空が何んとなく

「そうだヨ」

相棒道案になつて、右へ

左へと頗れで行くべくれ。そんな

「オイ俺りや脚氣だ。そんな

に早く行つたら後で困るゾー

相棒一寸微笑ながら残念そ

うに

「俺りや方角も町名も知ら

エから置去りするなヨ」

「良しや俺の後について來

い」「ヨシヤー

「なんだ人を見たとボンで

「ソレハ香水だヨ」「エヘー

「水をかけて歩く奴等」

幼時や、奇島陥落の時の提灯

行列の昔をしのび、近くは陸

の御大典にまで過去を追憶

して、母國の空が何んとなく

「そうだヨ」

相棒道案になつて、右へ

左へと頗れで行くべくれ。そんな

「オイ俺りや脚氣だ。そんな

に早く行つたら後で困るゾー

相棒一寸微笑ながら残念そ

うに

「俺りや方角も町名も知ら

エから置去りするなヨ」

「良しや俺の後について來

い」「ヨシヤー

「なんだ人を見たとボンで

「ソレハ香水だヨ」「エヘー

「水をかけて歩く奴等」

幼時や、奇島陥落の時の提灯

行列の昔をしのび、近くは陸

の御大典にまで過去を追憶

して、母國の空が何んとなく

「そうだヨ」

相棒道案になつて、右へ

左へと頗れで行くべくれ。そんな

「オイ俺りや脚氣だ。そんな

に早く行つたら後で困るゾー

相棒一寸微笑ながら残念そ

うに

「俺りや方角も町名も知ら

エから置去りするなヨ」

「良しや俺の後について來

い」「ヨシヤー

「なんだ人を見たとボンで

「ソレハ香水だヨ」「エヘー

「水をかけて歩く奴等」

幼時や、奇島陥落の時の提灯

行列の昔をしのび、近くは陸

の御大典にまで過去を追憶

して、母國の空が何んとなく

「そうだヨ」

相棒道案になつて、右へ

左へと頗れで行くべくれ。そんな

「オイ俺りや脚氣だ。そんな

に早く行つたら後で困るゾー

相棒一寸微笑ながら残念そ</



